

八千矛化学(株)



ふくい企業の挑戦

リーバイスのジーンズ、サッカー・などでしこジャパンのユニホーム…。プリント加工の八千矛化学(本社 福井市文京4丁目、大坂和三社長)は、大手アパレルメーカーから注文を受け、ロゴやマークなど衣類へのプリントを手掛けてきた。ただ近年はメーカーの海外への生産移転が増えてきたことで新規事業を模索。クリスタルガラス製品で知られる「スワロフスキー社」(オーストリア)とライセンス契約を結び、衣類へ高級装飾を施すデザイン分野に乗り出している。

八千矛化学(福井)

を衣類などの上に置き、家庭用アイロンで熱を加えるとガラスを圧着させることができる仕組みだ。

3年前から着手。ただ、デザインごとに型枠が必要。手作業でガラスを並べるため、コストや納期面で課題があった。そのため「日本に5台しかない」(同社)という、ガラスを自動で配置する機器を導入。同時に6色のガラスを配置でき、手作業では困難なミリ単位のデザインも作成可能になった。作業時間は5分の1に短縮、デザインの幅も格段に広がった。事業に本腰を入れるた

衣類へガラスの装飾

スワロフスキー代理店に

スワロフスキーの小さなガラスを並べてデザインしたシート。熱を加え、衣類に圧着させることができる。福井市文京4丁目の八千矛化学



め、昨年末に北陸で初めてスワロフスキー社の正規代理店の認定を受けた。高級アパレルブランドのプリント加工を手掛けてきた同社は、個人的な事業展開としての実績と歴史が世界的メーカーに認められた形だ。代理店となったことで、これまで手に入らなかった数種類に及ぶ色のガラスを安価に購入できるように

野の需要も見込む。大坂社長は「中国製品が性や高級感が鍵」と強調、将来的には新事業を分社化するなどして生産体制を整えることも検討している。